

地域医療連携室たより

No.26

発行日

2012年12月7日

医療法人社団松柏会
至誠堂総合病院



地域医療連携室たより
第26号

潜在する残存能力を 最大限ひきだすリハビリテーション



脳神経内科部長

やぐち まさみつ
谷口 昌光 医師

- ・日本神経学会専門医
- ・日本リハビリテーション医学会専門医
- ・日本内科学会認定医

今年7月に当院に就任しました。これまでのことや今後の抱負をインタビューしました。

自然豊かな生まれ故郷

生まれは茨城県下館（しもだて）市。小学校は「養蚕小学校」。その名の通り、桑の木がたくさんある、自然豊かなところで育ちました。祖父が農家をしており、蚕を飼っていて繭が天井につるされていたのが小さいころの記憶にあります。医師になりたいと思ったのは小学校の頃の大きな勘違いによります。白衣を着て、さっそうとした姿、私心なく身を捨てて働く姿が、カッコいいと思いました。そして医師は、みな博学で人格者だろうと思っていました。医師になれば、そうなれると考えました。医師になりたいという強い思いはありましたが、勉強はしませんでした。クラブ活動もせず、放課後は連日ゲーセン（ゲームセンター）に入り浸っていました。目を覚ますのが遅すぎて、高校を卒業してから受験勉強を始めました。

平成6年に群馬大学を卒業し、群馬大学神経内科に入局しました。当時の教授の学識の深さに惹かれ、また症候学（患者さんの症状を詳しく聴いて、四肢末端まで限なく丁寧に診察して病的な兆候を見出し、診断に結びつける学問）、特に神経症候学に興味を持ったからです。東京都老人医療センターなどで研修し、群馬大学にもどり、平成11年からの4年間は長岡（新潟県）から群馬大学大学院へ新幹線通学して病理学を勉強しました。

当院でどのような医療を行っていきたいか

専門は脳神経内科です。脳・脊髄・末梢神経・筋肉の疾患を対象とし、脳梗塞や脳出血、髄膜炎、パーキンソン病、片頭痛などの診断・治療を行います。

廃用をつくらない急性期治療と、潜在する残存能力をも最大限に引き出すようなリハビリテーション（リハ）をテーマに診療しています。廃用を作らない急性期治療は、拘縮などによって将来あるべき回復の機会を失わないために、そして可及的速やかな回復を得るために。リハとくに脳卒中リハでは、一般には無視されるような残存能力をも最大限に引き出し、これを伸ばし最大限の日常生活動作の拡大へつなげるよう心掛けています。

当院では、まだ遠慮していますが、患者さんには結構スパルタ方式で訓練をしてもらいます。ときには人工呼吸器を引きずりながら患者さんに歩いてもらいます。患者さん側からギブアップがでて、患者さんの気力・体力がまだ充実していると判断したときは、これに構わず訓練を強行続行します。それでも患者さんと喧嘩になったことはありません。

50編の論文を書くことを自分に課す

医師生活において自分に課していることがあります。どんな形であれ論文を50編書き上げることです。なぜ？論文を書くことによって自分の行っている診療を評価してもらい、標準的な診療になっているかどうかを確認します。医局を離れたので独善的な診療に陥らないよう自分を律するためです。勉強すればするほどに知らないことは増えるばかりで、切りがないので50編書いたら医師を辞めるつもりでいます。当院の仕事ではまだ論文を書いていません。当院では来春MRIが導入される予定であり、とても期待をしています。

医師の世界にはなかなかなじみません。小さい頃思い描いていた世界とは大分違うと感じます。自分自身としては、ただひたすら誠実に患者さんと向き合うことが大事だと考えています。



回復期病棟カンファランス

ご家族は？

妻、中学校と幼稚園に通う娘がいます。「親思う心にまさる親心、けふのおとずれ何ときくらん」という吉田松陰の句がありますが、子供をもってはじめて前半部の意味が心の奥底まで深く理解できました。料理も時々つくります。誰でも作れる料理ですがカレー、シチュー、焼きそば、卵スープは得意です。子供達は「おいしい、おいしい」と言いながら我慢して食べています。

山形に来て感じることは、住みやすいし食べ物おいしいということです。芋煮、だし、冷やしラーメン、さくらんぼ、ラ・フランスなどには、「この世にこんな美味しいものがあったのか！」と大変驚かされました。

趣味は？

今、一番打ち込んでいるのは造艦です。家に飾るには、本物はちょっと大きすぎるので1/350あるいは1/500の模型で我慢しています。毎日少しずつ組み立て、1艦が完成までに半年位かかります。知人からは芸術の域にあると評されています。一眼レフでの写真撮影、（自動追尾赤道儀はかなり重く引っ張り出すのが大変で）覚悟と体力がある時は天体観測・撮影もします。ほかDVD（映画）は60作/年くらい見ます。

谷口昌光先生を「こうと決めたら貫くタイプ」と評する当院スタッフがいます。ユーモアのある話ぶりに、インタビュー中何回も笑ってしまいました。今後ともよろしくご指導をお願いします。

「至誠堂総合病院 第8回地域連携交流会」開催

「最高の一日 最良の最後 地域で支えあういのち」

10月15日（月）午後6時30分から大手門パルズにて標記交流会が開催されました。講師は山梨県甲府市で「ふじ内科クリニック」を開業されている内藤いづみ先生です。

在宅ホスピスの実践における患者さんとの関わりは参加者の共感を呼び、あらためて日常の医療、福祉の活動を振り返るものとなりました。

市内の病院、福祉施設、介護事業所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所からたくさんの方々に参加いただき、盛会のうちに終了しました。ご協力ありがとうございました。

以下、参加者アンケートからの抜粋です。

- ・在宅医療の在り方に深く感銘した。心に寄り添うケア、その人らしい生き方を貫くための支援の在り方についてもっと深めていきたい。
- ・緩和ケアの大切さを学んだ。病院では日々、時間に仕事に追われていて患者さんに十分なことができず、心が痛む。
- ・温かい気持ちになった。生活のなかにある「死」というものを考える良い機会になった。
- ・QOLを重視していくことが、我々医療人の果たすべき役割と改めて強く感じた。命に寄り添う仕事をする以上、命の終わりから学ぶことが大切だと思った。
- ・介護施設を運営しているが、営業成績が先行し、ややもすると介護の本質がゆがめられてしまうと考えている。また、本人の意思が確かめられない重症の介護者が多くなっている。



講師 内藤いづみ氏



座長 高橋敬治院長



閉会のあいさつ 小林真司医師



講演後、講師に質問する参加者

地域連携交流会懇親会 なごやかに開催



講演会終了後、病院講堂で内藤いづみ氏を囲んでささやかな懇親会を行いました。



当院副院長三宅公人、看護部長高橋静子、看護師長千場弘美より感想が寄せられました。



我らが街 桜町・木の実町・旅籠町商店街 ⑬

喫茶&スナック カフェー

営業時間 11:30~14:30

16:00~23:00

山形市木の実町14-4 Tel.023-624-0710

◆水戸部正志さん（カフェオーナー）に聞く



35年前に現在の場所で「カフェー」をオープン、木の実町界隈の飲食店では1番の老舗です。老舗ならではの落ち着いた感じでほっとできる雰囲気のお店です。今年62歳になるとは思えない元気な店主が出迎えてくれました。お昼はすべて手作りの日替わりランチから、週替わりランチ、明日までセット、500円ランチと4種類。1番人気は日替わりランチでコーヒーまでついて600円とお手頃!! 美味しくランチが楽しめるお店です。日替わりランチはその日の天気や気温も考慮し決めているそうで、行ってみないとわからないという所がまたおもしろい所。夜になると、常連さんたちが集うバー

カウンターへ様変わり。昼のような定食メニューはなく、店主おすすめのメニューが並びます。これからの時期はもつ煮がおすすめ。また、生地から手作りしたピザもお酒には合う一品です。



日本医療機能評価機構認定施設
病院機能評価 Ver.6



至誠堂総合病院 地域医療連携室

山形市桜町7-44
023-622-7551 (直通)
<http://www.shiseido-hp.jp>
E-mail mail@shiseido-hp.jp
発行責任者 至誠堂総合病院
小林 真司
編集 地域医療連携室